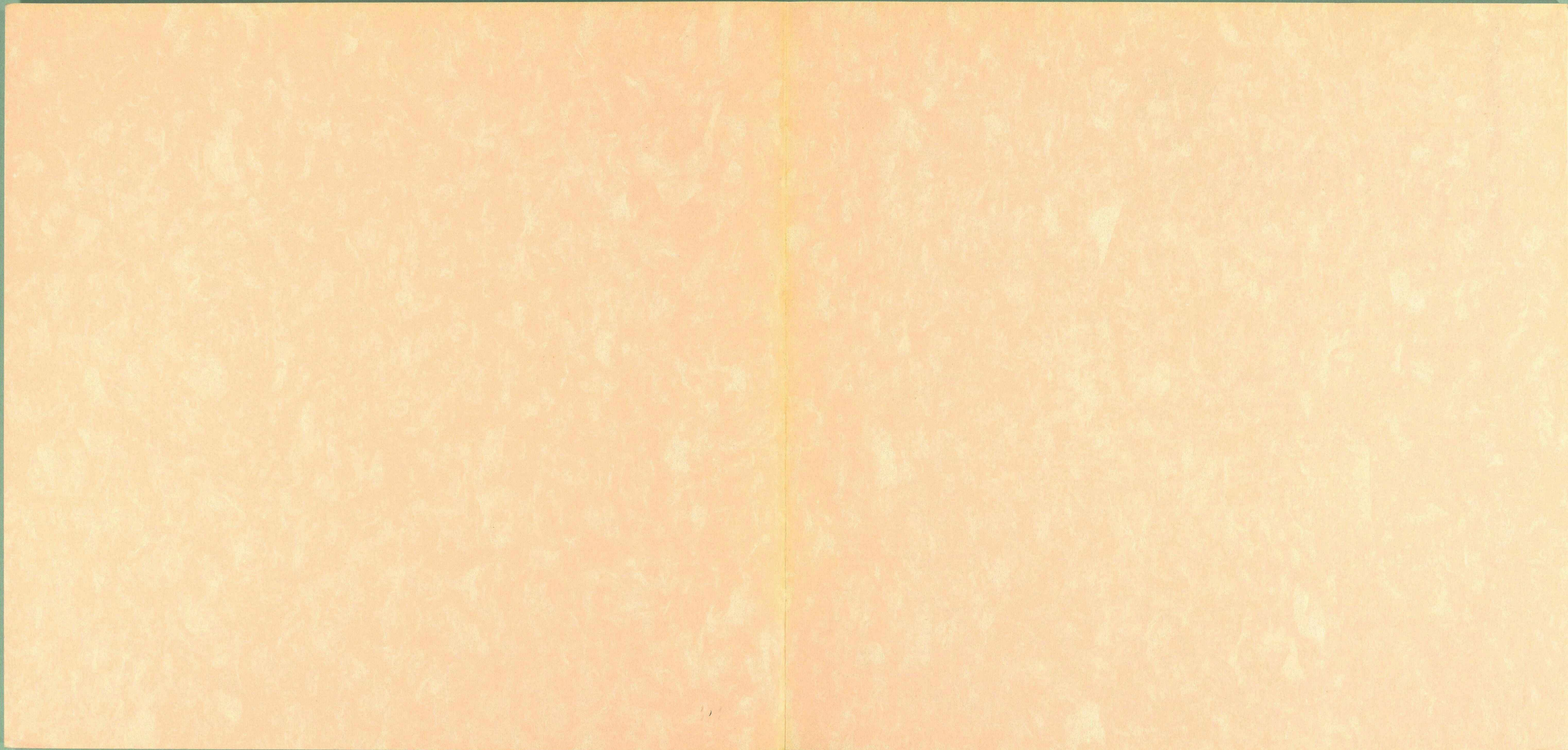


くまもと

'92市勢要覧
KUMAMOTO



'92市勢要覧

CONTENTS

熊本市民愛市憲章	1	健康文化	42
市木・市花・市鳥	2	雇用福祉	43
発刊のことば	3	消費者行政	44
ヒューマンシティくまもと	4	男女共同参画社会	45
熊本市のあゆみ	6	学校教育	46
名誉市民	14	社会教育	47
地域と気象	15	青少年の健全育成	48
人 口	16	創造的な人づくり	49
水と緑の人間環境都市を目指して		活力あふれる交流拠点都市を目指して	
良好な環境づくり	19	国際交流	51
緑と水	20	観光・コンベンション	52
清 掃	21	流通・情報拠点	54
公害防止	22	中小企業	55
防 災	23	魅力ある商店街	56
消 防	24	工 業	57
交通安全	25	農林水産業	58
住 宅	26	風格ある文化創造都市を目指して	
公園緑地	27	歴史文化	60
上水道	28	都市景観	61
下水道	29	市民文化	62
市街地開発	30	知的生産	63
道路・駐車場	31	行 政	64
基幹交通	32	熊本市行政機構図	65
市電・市バス	34	市議会	66
いきいきとした市民福祉都市を目指して		財 政	68
高齢者福祉	36	広報・広聴	70
心身障害者福祉	37	市民のくらし	71
地域福祉	38	熊本市のご案内	72
児童・母子福祉	39	資料編	73
社会保障	40	市内の主な官公署	83
保健医療	41	熊本市歌	

(題字……熊本市長 田尻靖幹)
(写真説明)

熊本城の一の天守(大天守)と二の天守(小天守)は連立天守閣である。

写真は二の天守の出入口のとびらにあたる。

そもそも「天守」とは、城の中核として、縄張りの中心部に高くそびえる象徴的な意味を持つ楼閣のことであり、城といえば天守閣のことであると錯覚するくらい重要な地位を占める。

特に二の天守(小天守)は、その中に設けられた「昭君の間」の存在から、豊臣秀吉の遺児秀頼を奉じて、豊臣家の存続・再興を計画していたことは確かなようである。

つくりは2層4階・地下1階の計5階で、地下の部分には井戸があり即ち飲料水の確保を図り、さらにこの出入り口から抜け道へ続いており(現存)、『いざ鎌倉』という時の築城者である加藤清正の覚悟がうかがえる。

残念ながら明治10年(1877年)の西南戦争において謎の炎上をとげ現在の天守は、昭和35年(1960年)に再建されたものである。

なお「昭君の間」は「將軍の間」の隠語である。



熊本市章

ひらがなの「く」の字を
図案化したもので、市民の
調和を基とし、たくましく
発展する熊本市の姿を太い
円で示したものです。

H U M A N C I T Y K U M A M O T O

熊本市民

愛市憲章

——品位ある市民の誇りのために——

私たち熊本市民は 清潔で住みよい街をつくりましょう

私たち熊本市民は 郷土の自然や文化財を大切にいたしましょう

私たち熊本市民は 時間を正しく守りましょう

私たち熊本市民は 交通道徳を重んじましょう

私たち熊本市民は 互いにあたたかく交わり旅行者を親切に迎えましょう

昭和35年5月11日制定

市木・市花・市鳥

市木・市花 昭和49年10月9日制定
市 鳥 昭和59年5月22日制定



●市 木 イチョウ(イチョウ科)
熊本市民には熊本城が銀杏城といわれているようになじみ深く、強健で樹齢が長く、市街地の街路に多く植栽され、独特な尖円錐形の樹形をつくり春の緑陰、秋の黄葉とその美しきでよく知られている。

●市 花 肥後椿(ツバキ科)
江戸時代から細川藩の庇護を受け、藩士をはじめ寺社地の豪族等の愛好者によって広められ改良を重ねて、清雅枯淡の味わいある銘花となったといわれている。肥後椿の特色は薄色の花弁が主流でよく整った一重咲きで、中心に金糸銀糸のような色鮮やかな太い雄しべが梅芯のように盛りあがるところにある。

●市 鳥 シジュウカラ(シジュウカラ科)
全長約14.5cmで、美しい澄んだ声でさえずり、多量の害虫を食べ、緑を守る益鳥として市民に親しまれている。金峰山や立田山、託麻三山など森に多く生息し、白い胸に黒ネクタイ状の帯が目立つ可愛い姿で、四季を通じて観察される。
(写真は、東海大学出版会提供フィールド図鑑より)

発刊のことば Human City くもと

熊本市は昨年2月1日飽託郡4町との歴史的な大合併が実現し、人口63万の新熊本市が誕生しました。

顧みますと明治22年の市制施行以来、本市は幾多の困難に遭遇しながらも、先人のたゆまぬ努力により着実に発展を続けてまいりました。

私はこの合併を機会に、21世紀への新たな飛躍に向けて、全市民が安全で快適な人間本来の豊かさを実感できるような魅力と活力あふれる「ヒューマンシティ・くもと」を建設するため、市民主体の「新熊本構想」を策定しました。

そして本年1月には新熊本構想の4つの都市像を実現するための「基本計画」を定め、計画的なまちづくりを進めています。

これまで、道路、河川、公園、住宅、上・下水道などの基幹施設はもとより、経済活性化の拠点施設としてのみかんの里振興センター、くもと工芸会館、五福地域開発センター、天明コミュニティセンターの建設をはじめ、経済波及効果が期待される熊本国際コンベンション協会の設立など、地域の特性を活かしたまちづくりを進めるとともに、辛島公園地下駐車場、熊本駅前再開発ビルも今秋には完成するなど、新熊本市にふさわしい基盤づくりに取り組んでいます。

平成4年度は新基本計画に基づく新たなまちづくりのスタートに当たり、かけがえのない地下水保全と緑

化、公害対策のための環境保全局の新設、福祉の充実を図るための福祉公社の設立、在宅福祉センターの新設をはじめ、四町合併記念全国物産展の開催、食品工業団地や海洋水族館の建設、熊本港背後地整備等に取り組むことにしています。

さらに国際化に呼応し、中華人民共和国桂林市、アメリカ合衆国サンアントニオ市に加え、永年友好関係にあったドイツ連邦共和国ハイデルルク市との友好協定を進めるとともに国際交流会館(仮称)を建設するなど、国際観光都市の実現をめざしています。

どうか市民の皆様の一層の御支援、御協力をお願いします。

この'92市勢要覧は、大きく21世紀へはばたく新熊本市の姿を収録したものであり、御高覧のうえ、市政への一層の御理解をいただければ真に幸いに存じます。

平成4年3月

熊本市長 田尻靖幹



HUMAN CITY KUMAMOTO

ヒューマンシティ くまもと

海を越え、空を飛び、人が行きかう。
経済が、文化が、確かに大地に実を結ぶ
いま、可能性に満ちた町、くまもとが
未来に向かい、
大きく、羽ばたきます。



熊本市のあゆみ

熊本は、昔から「火の国」と呼ばれてきました。大化の改新のあと、奈良時代に入って現出水町に国府がおかれ、ここを中心に聚落が形成されるようになりました。このち、平安・鎌倉時代を経て室町時代になると、菊池一族である出田秀信が、はじめて熊本に千葉城を築き、数代後の城主鹿子木親員が、新しく茶臼山に城を築いて隈本城と呼びました。

豊臣時代に入って秀吉は全国を制覇するや小西行長と加藤清正に肥後を分領させたが、徳川の天下になると、加

藤清正は肥後54万石の領主となり、慶長6年から茶臼山に築いていた新城を隈本城から熊本城に改めました。熊本市が町としての体制を整えたのは、このころからです。続いて細川忠利が肥後の領主となり、大政奉還までの二百有余年を細川家が政治を行ってきました。

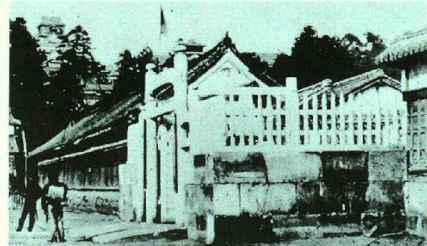
明治10年西南の役で兵火を受け、市街地の大部分を灰燼に帰したが、直ちに復興し、明治22年には熊本市が誕生しました。大正から昭和にかけては隣接町村を合併しつつ熊本市の基礎を固

め、九州における政治・経済・教育の中心地として発展を続けました。その後、昭和20年には大空襲で、終戦後の復興期にあった28年には未曾有の大被害によって、市街地は壊滅的な被害を受けました。しかし全市民の不断努力によって、困難を克服した熊本市はその後数次にわたる市域の拡大や近代的都市機能の集積を行い、平成元年4月には市制施行100周年という大きな節目を迎えました。

そして、平成3年2月1日、飽託郡の北部町、河内町、飽田町、天明町と

合併し、人口約63万人、面積約266平方キロメートルの新熊本市が誕生しました。

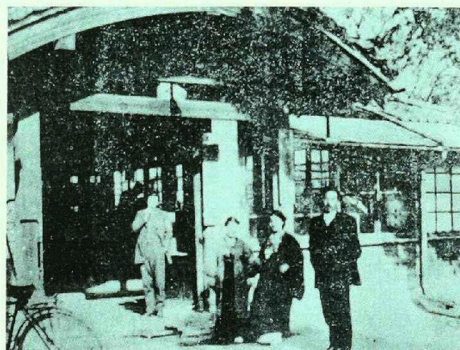
更にこの合併を機に「ヒューマンシティくまもと」の実現のため「熊本市基本構想」を策定し、「水と緑の人間環境都市」「いきいきとした市民福祉都市」「活力あふれる交流拠点都市」「風格ある文化創造都市」の4つの都市像を目標としました。これを基に平成4年1月には基本計画を定め、その実現に鋭意努力を重ねています。



鎮台花畑本営と熊本城、現在の市民会館前から撮影したもので大小天守閣が見える。明治5年頃。

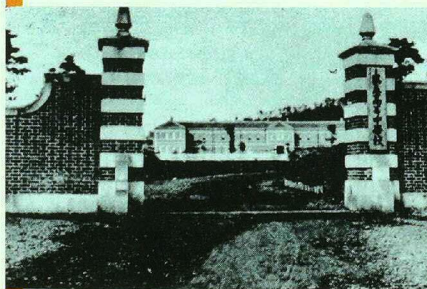
大化	西暦	
	646	大化2年 砂取付近に肥後の国府および兵力4軍団が設置される
文明	1469	文明1年 菊池氏の一族、出田秀信千葉城を築く
明応	1496	明応5年 鹿子木親員、古城に居城を移し、隈本城と称する
慶長	1601 1607	慶長6～12年 加藤清正、現在地に熊本城を築き、河川の築堤、井戸の掘削など行う
寛永	1632	寛永9年 細川忠利、肥後藩主となる
宝暦	1754 1756	宝暦4～6年 藩校時習館、医学校再春館、蕃滋園(薬草園)などが創設される

明	1870	明治3年 古城に医学校が創設される
	1871	4年 鹿藩置県により熊本県が設置される 鎮西鎮台(九州および中国西部を管轄)が設置される 熊本洋学校が創立される
	1874	7年 九州最初の新聞、白川新聞が発行される
	1877	10年 西南の役、市街地の大半が兵火により焼失した
	1886	19年 熊本通信管理局(郵務・電務関係)が設置される
	1887	20年 第五高等中学校(九州に1校)が創立される
治	1889	22年4月 市町村制が施行され、熊本市が誕生する 市域面積5.55km ² 、人口42,725人、戸数11,797戸、市議会議員数30人、市職員48人であった
		6月 赤十字社熊本支部設立 新南千反畑町、現在の白川公園前に市役所が開庁



新南千反畑町の旧区役所跡に熊本市役所は開庁した。

7月
第五高等中学が古城から黒髪に移転



明治20年古城に新設された第五高等中学校は、同22年立田山麓の黒髪に移転。

明	1890	明治23年10月 教育勅語発令 (井上毅と元田永孚が成案) 11月 第1回帝国議会在開かれる
	1891	24年7月 門司・熊本間の九州鉄道が開通 熊本電燈会社が開業し九州に初めて電燈がともる
		11月 ラフカディオ・ヘルン(小泉八雲)五高に着任
	1892	25年4月 塘林虎五郎が貧児寮(現大江学園)を設立
	1894	27年7月 第6師団に動員令がくだる 孤児・貧児の養育を目的とした天使園が設立される
		8月 日清戦争がはじまる
	1895	28年11月 イギリス人ハンナ・リデル女史が回春病院設立
	1896	29年4月 夏目漱石が五高に着任、熊本を森の都と称賛
治		9月 私立医学校が設立される
	1898	31年1月 熊本専売支局が黒髪町に葉煙草専売所設置 10月 フランス人、ジョン・メリー・コール神父が瀬救済の待労院を設立 この年、市立避病院設立(後の白川病院) 第23連隊練兵場が山崎町から渡鹿に移る
	1899	32年6月 私立医学校が熊本医学専門校となる

明	1899	32年12月 三角線開通
	1900	33年7月 市内に大洪水、白川の橋ほとんど流失し、子飼橋付近溺死者多数
	1901	34年1月 熊本郵便局が電話業務を開始



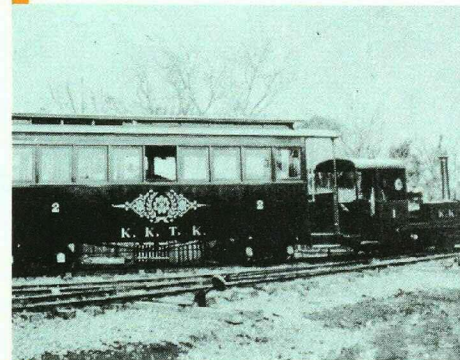
明治34年に市内の電話が開通した。交換手の白い上衣、紫袴は当時の女性の憧れだった。



旧熊本城南大手入口の下馬橋。明治35年11月の陸軍大演習の際、行幸坂、行幸橋が造られ姿を消した。

治	1902	35年11月 明治天皇をお迎えし、陸軍特別大演習を举行 行幸橋を架設
	1903	36年3月 市区改正の事業と新市街の事業完成

明	1904	37年2月 日露戦争はじまり、第6師団出征
	1906	39年3月 熊本高等工業学校設立
		9月 夏目漱石が「草枕」を発表
	1907	40年7月 九州鉄道が国有となる
		12月 熊本軽便鉄道株式会社が安巳橋・水前寺間に軽便鉄道を敷設



軽便鉄道。K.K.T.Kは熊本軽便鉄道株式会社の略。

治	1908	41年2月 人力車争議おこる
	1909	42年 鹿児島本線全線開通
	1910	43年1月 薬学専門学校発足
		4月 女子師範学校発足
		6月 熊本ガス株式会社が開業する
	1911	44年4月 市立実科高等女学校開校 市立工業徒弟学校開校
		10月 菊池軌道株式会社が上熊本・広町間敷設

THE COURSE OF KUMAMOTO

- 大正 1913 大正2年
この年、熊本軌道が田崎・百貫港、
田崎・高麗門に開通
- 1914 3年7月
第1次世界大戦はじまる
- 1915 4年11月
御大典記念奉祝共進会を開催
- 1916 5年6月
県公会堂が市に移管される
- 1917 6年3月
熊本市工業従弟学校が
熊本商工学校となる
- 1918 7年7月
このころより全国に米騒動
- 10月
スペイン風邪が流行し、
全国で死者15万人
- 1920 9年10月
第1回国勢調査で、
市人口70,388人(市史)
戸数 13,817戸
- 1921 10年6月
隣接11ヶ町村を合併、
人口133,467人
戸数23,819戸の大熊本市が発足
(黒髪・池田・花園・島崎・横手・
春日・古町・本荘・春竹・大江・
本山)



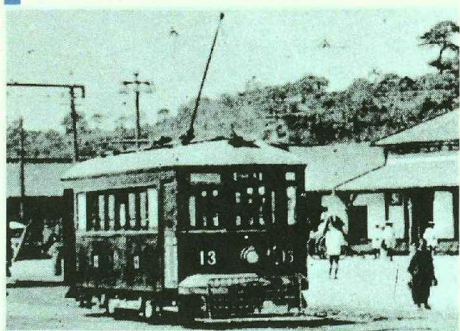
大正10年、隣接11ヶ町村を合併し大熊本市が発足した。記念碑前で合併を祝う人たち。

- 大正 1922 11年4月
熊本市立実科高等女学校が
熊本市立高等女学校となる
- 5月
熊本医学専門学校が医科大学に
- 1923 12年12月
手取本町に市役所新庁舎完成



大正12年12月、市役所新庁舎完成。

- 正 1924 13年8月
市営電車開通(車輛15台)
開通に伴い鉄筋コンクリート大甲
橋を架設



大正13年8月1日市電開通。救助網がついている開通当時の13型電車。

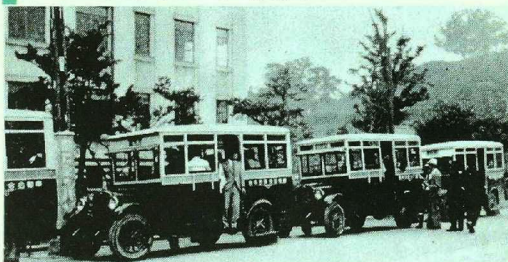
- 10月
歩兵第23連隊が
渡鹿に移転

- 11月
熊本市上水道完成



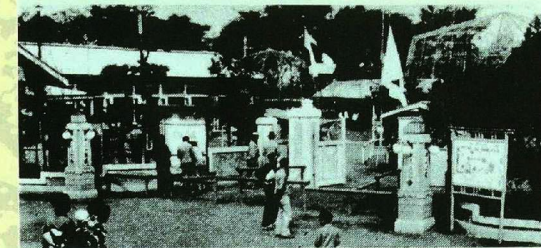
大正末の市街地。合併による市域の拡大、三大事業の完成など、市の中心から周辺へと都市づくりが進む。

- 大正 1925 14年3月
市三大事業(市電、上水道、
23連隊移転)完成記念共進会開催
入場者133万人
- 4月
出水村を市に合併
- 1926 15年8月
三大事業完成記念共進会の剰余金
で五高と下河原にプールを造成
- 1927 昭和2年2月
長六橋を近代式鉄橋に架け替える
- 7月
市立工業研究所(後の工芸指導所)
が開所
- 12月
市営バス発足(バス17台)
この年、市及び市付近の人力車812、
乗用馬車4、自動車115



昭和2年12月から17台の市営バスが走り始めた。(写真は昭和8年6月)

- 1928 3年2月
第16回総選挙、最初の普通選挙
行われる
- 6月
NHK熊本放送局でラジオ初放送
- 9月
御大典記念事業として、
陸上競技場・野球場が完成
- 1929 4年7月
水前寺動物園が開園
- 1930 5年3月
熊本市歌を制定



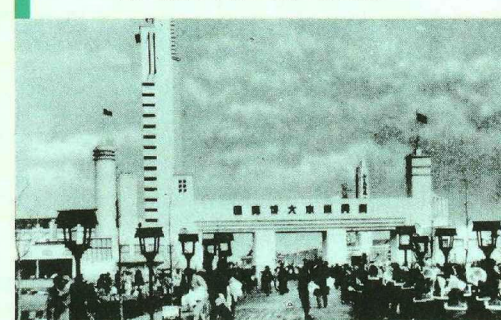
昭和4年7月に
水前寺動物園が開園。

- 昭和 1930 5年4月
市営勸業館が新市街に開館
- 10月
市公会堂新館が開館



昭和43年市民会館の出現に伴い取りこわされた。

- 1931 6年6月
白坪村を市に合併
- 11月
天皇陛下をお迎えし、熊本平野等
で陸軍特別大演習を挙行
- 1932 7年9月
失業救済の土木事業をはじめる
- 12月
画図村を市に合併
- 1933 8年3月
花園町に市営墓地を開設
- 4月
熊本高等小学校が再設開校
熊本駅に観光案内所を設置
- 1935 10年3月
新興熊本大博覧会を開催



昭和10年3月から5月にかけて開かれた
新興熊本大博覧会。

THE COURSE OF KUMAMOTO



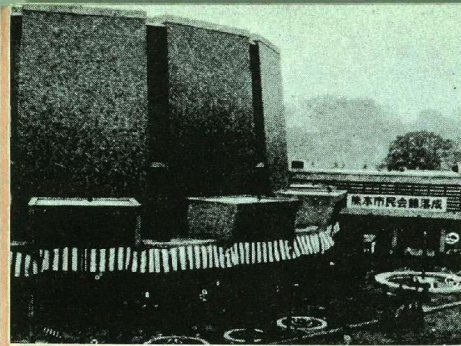
昭和10年頃の市新街記念碑前、
市営バスの発着所。左に専売局と公会堂、
右に勸業館、電話局が見える。

- 昭和 1936 11年11月
健軍村を市に合併
- 1939 14年4月
清水村を市に合併
- 1940 15年12月
川尻町、日吉村、力合村を合併
この年、市営バスに木炭車登場
- 1941 16年4月
小学校が国民学校に改められる
- 12月
太平洋戦争はじまる
- 1942 17年4月
九州日日新聞と九州新聞が
統合され、熊本日日新聞が発足
- 1943 18年
この年、学徒、女子挺身隊の
戦時動員が開始される
健軍に三菱重工業航空機製作所が
完成する
- 1944 19年3月
市電氣局が市交通局と改称
- 1945 20年6月
市立本荘産院が発足
- 7月
7月・8月の空襲で市の大半が
焦土と化す
- 8月
終戦の詔書放送
- 1946 21年2月
市立市民病院発足
- 11月
日本国憲法公布(新憲法)
この年、学校給食はじまる
- 1947 22年4月
市長、県知事が初めて公選で
決まる 国民学校が小学校に
また新制中学が誕生
- 5月
憲法、地方自治法施行
- 1948 23年3月
市消防本部設置
市立母子寮を開設

- 昭和 1948 23年3月
市自治警察本部設置
(新警察制度発足)
- 4月
新制高等学校発足する
- 1949 24年4月
「火の国まつり」はじまる
市立実務員養成所(後の実務商業)
を開設
- 5月
天皇皇后両陛下ご来熊
この年、国立熊本大学発足
県立熊本女子大学が創設される
市立熊本保健所を上林町に開設
- 1950 25年6月
朝鮮戦争おこる
- 7月
市競輪事業開設
熊本市立産院開設
- 1951 26年4月
市教育研究所を設置
- 1952 27年1月
市立博物館開館
- 7月
住民登録制度を実施
- 1953 28年4月
田迎村、御幸村を市に合併
- 6月
豪雨、大水害で市人口の
66%が罹災

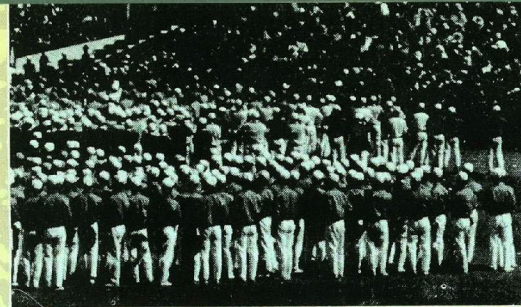


「昭和28年6月26日」大水害の惨状。到る所泥の山。
流失した家財などで復旧に多くの人手、資材と日数
を要した。(上通り筋)



昭和43年1月6日市民会館が完成。一、八〇〇人収容の大ホールと各種の会議室を備えた近代建築。

THE COURSE OF KUMAMOTO

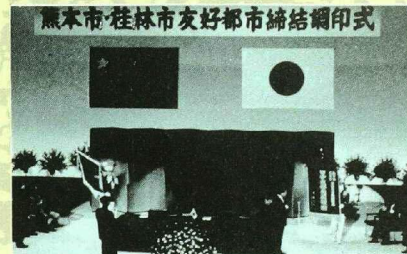


昭和35年10月、第15回国民体育大会は、全国から1万3千人が集まり盛大に開催された。



昭和52年9月
東部市民センター開設。

THE COURSE OF KUMAMOTO



昭和54年10月1日、市制90周年の記念すべき式典の席上で中国桂林市と友好都市締結。

- 昭和
- 1953 28年7月 池上村、高橋村、城山村を市に合併
 - 10月 市立図書館発足 ラジオ熊本開局
 - 1954 29年6月 市自治警察廃止（警察制度改正）
 - 10月 秋津村を市に合併 市電30年記念「交通観光博覧会」を開催
 - 1955 30年4月 松尾村を市に合併
 - 1956 31年4月 託麻村の一部を市に合併
 - 1957 32年1月 小島町、龍田村を市に合併
 - 7月 大水害で市の33%が浸水し、金峰山周辺の山津波で死者、行方不明多数を出す
 - 1958 33年2月 NHK熊本テレビ開局
 - 4月 中島村を市に合併 天皇皇后両陛下ご巡幸で立田山、水前寺などをご観覧 第30回選抜高校野球大会で済々僊が優勝
 - 9月 熊本市体育館が水前寺公園横に完成
 - 1959 34年4月 国民年金制度発足
 - 7月 国民健康保険制度発足
 - 1960 35年4月 熊本空港開設
 - 5月 愛市憲章を制定
 - 8月 熊本城天守閣再建完成

- 昭和
- 1960 35年9月 第15回国民体育大会を開催
 - 12月 西保健所を開設
 - 1962 37年3月 天守閣再建記念「躍進熊本大博覧会」開催
 - 1963 38年4月 北部清掃事業所開所
 - 1964 39年4月 市総合計画策定（マスタープラン）
 - 10月 「まちをキレイにする運動」がはじまる
 - 12月 東部污水处理場完成
 - 1965 40年4月 市食肉センター開所 この年、市内全小学校にプール完成
 - 1966 41年9月 西部清掃事業所開所 市民相談室を設置
 - 10月 熊本保健所が九品寺1丁目に新装発足
 - 1967 42年3月 出水町に県庁新庁舎が完成
 - 1968 43年1月 市民会館開館
 - 4月 市社会教育会館が開館 市育英奨学制度創設
 - 1969 44年4月 熊本（水辺）動物園が完成し、「熊本動物大博覧会」を開催
 - 8月 熊本市章きまる
 - 1970 45年11月 託麻村を市に合併
 - 1971 46年4月 新熊本空港開設
 - 5月 市勤労青少年ホーム開館

- 昭和
- 6月 九州縦貫自動車道（熊本・植木間）開通
 - 7月 熊本市基本構想きまる
 - 11月 市立ユースホステル開館
 - 1972 47年10月 「森の都」を宣言し、森の都作戦を展開
 - 12月 秋津下水処理場が完成
 - 1973 48年1月 戸島町に市斎場開設
 - 5月 学校給食東共同調理場が完成
 - 1974 49年6月 勤労婦人センターを本山町に開設
 - 10月 西部、南部市民センターが完成 森の都のシンボルとして市の木「イチヨウ」、市の花「肥後ツバキ」がきまる
 - 1975 50年5月 身体障害者福祉モデル都市に指定される
 - 9月 南千反畑町に中央老人福祉センターが完成
 - 10月 市立金峰山少年自然の家が開所
 - 1976 51年3月 「地下水保全都市」を宣言
 - 1977 52年4月 西南の役百周年記念式典を行う
 - 5月 熊本市人口が50万人を突破

昭和46年6月熊本・植木間を通じた。高速自動車道が開通した。

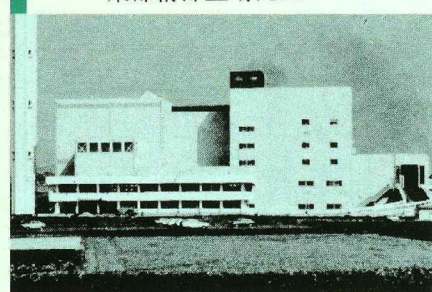


- 昭和
- 52年9月 錦ヶ丘に東部市民センター完成 地下水保全条例を制定する
 - 1978 53年4月 新しい熊本博物館が開館
 - 8月 市民総参加の「火の国まつり」が誕生

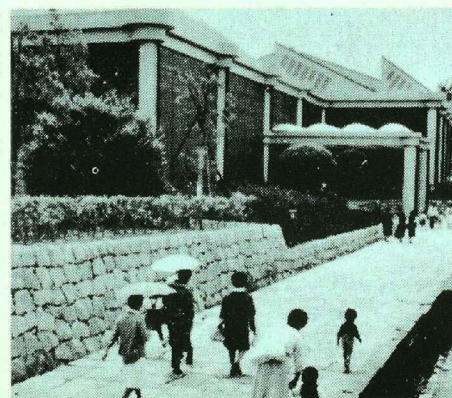


昭和53年8月、熊本の新しい夏まつり、市民総参加の「火の国まつり」が始まる。

- 昭和
- 1979 54年4月 東部清掃工場完成



昭和54年4月、最新の処理機能を持つ東部清掃工場が完成した。



- 昭和
- 1979 54年4月 新熊本市市民病院開設
 - 7月 熊本市保健センター開設（現東部保健センター）が開所
 - 龍田市民センター完成
 - 10月 「健康都市」を宣言 中国・桂林市と友好都市締結 市制90周年記念式典を行う 養護老人ホーム明生園開園
 - 1980 55年6月 身障者福祉センター希望荘開設
 - 8月 水害で約16,900人の市民の罹災者を出す
 - 12月 熊本市総合計画基本構想きまる
 - 1981 56年1月 熊本市保健衛生研究所開設
 - 2月 熊本城西大手櫓門復元完成
 - 3月 産業文化会館が開館
 - 5月 託麻市民センター完成
 - 7月 熊本市総合計画基本計画きまる
 - 8月 西ドイツ・ハイデルベルク市へ友好訪問団を派遣
 - 10月 熊本市市民の翼、友好都市桂林市を訪問
 - 11月 新市庁舎建設完成
 - 1982 57年6月 幸田市民センター完成
 - 7月 北部保健センター開設 小楠記念館完成

- 昭和
- 青少年野外活動センター完成
 - 8月 西ドイツ・ハイデルベルク市 音楽五重奏団来熊
 - 11月 図書館完成
 - 1983 58年4月 龍田体育館完成
 - 1984 59年5月 市の鳥としてシジュウカラ制定 扇田埋立処分場供用開始
 - 7月 清水市民センター完成
 - 8月 熊本市の人口が55万人を突破
 - 10月 消防新庁舎完成
 - 1985 60年6月 母子福祉センター完成
 - 8月 秋津市民センター完成
 - 1986 61年1月 熊本市自転車駐車場完成
 - 3月 電子計算システム始動
 - 4月 西部清掃工場完成・東部清掃事業所開所
 - 7月 総合体育館・青年会館開館
 - 8月 第4回全国都市緑化くまもとフェア開催（8月1日～10月12日）
 - 10月 10月1日を「市民健康の日」と制定

昭和56年11月
新市庁舎完成



産業文化
会館



昭和35年9月、83年ぶりに熊本城天守閣が再建された。



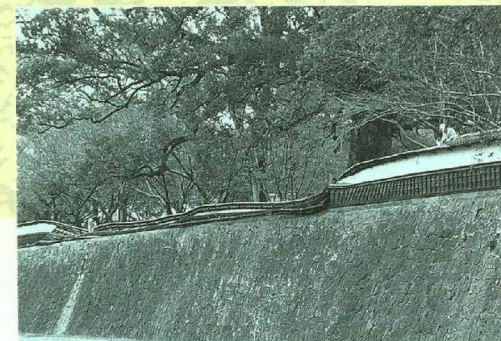
昭和62年9月、教育センターオープン。

THE COURSE OF KUMAMOTO

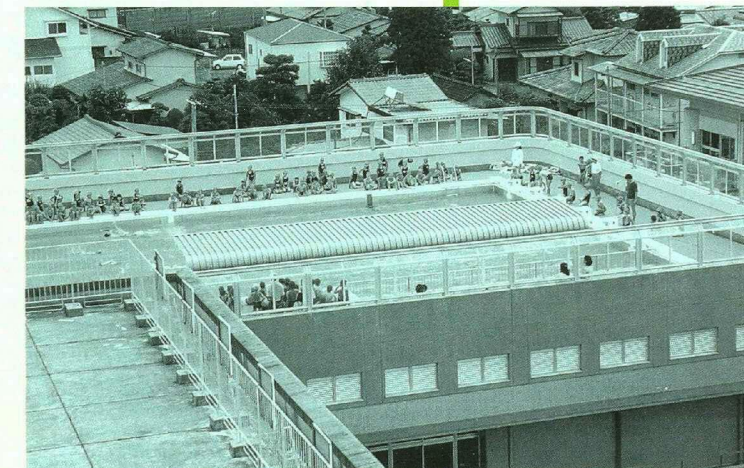
平成元年4月
流通情報会館完成



THE COURSE OF KUMAMOTO



「五福地域開発センター」
が落成



五福地域開発センター、
五福小学校
屋上プール

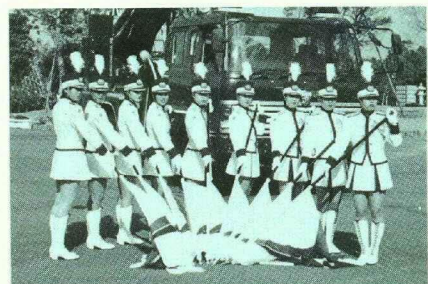
武蔵塚公園に「清靖亭」完成
5月
本荘犬洩線立体交差開通
6月
「南部総合スポーツセンタ
ー」がオープン
「みかんの里振興センター」
オープン
「天明コミュニティセンタ
ー」オープン
7月
在宅歯科検診制度発足
「くまもと工芸会館」がオ
ープン

9月
台風19号来襲
10月
動植物園のオープンを記念
して「第5回くまもと緑化
祭」が開催
市営新地団地第一期工事完
成



くまもと工芸会館

昭 61年12月
新西保健所開設
62年4月
川尻下水処理場運転開始
5月
「ふれあいの森林」
内に森林学習館がオープン
9月
西消防署が移転新築
教育センターオープン
10月
第1回熊本緑化祭開催
12月
米国・サンアントニオ市と
姉妹都市締結
1988 63年1月
くまもと女性フォーラム'88開催
2月
シルバー人材センター発足
4月
大阪事務所オープン



シンボルマーク発表会
長堀通り開通
7月
大江市民センター完成
8月
江津湖まつり(マイソング発表会)

平 1989 10月
くまもと緑化祭・地場産業振興フ
ェア開催
平成元年1月
坪井川リバーウォーク構想発表
3月
市議会で飽託郡四町からの合併請
願採択
4月
「熊本百彩」開幕
流通情報会館完成
「水源かん養林記念植樹祭」
5月
サンアントニオ市に「熊本園」完成
6月
託麻北小学校に屋上プール完成
8月
金糸猴一般公開



南部保健センター開設
9月
宇土櫓・数寄屋丸二階御広間完成
動物資料館完成
熊本城フェスティバル
10月
歴史都市サミット開催
11月
大阪で「くまもと農産物フェア」
開く



平 1990 平成2年3月
政治倫理条例制定
4月
「総合婦人会館・カルチャーセンタ
ー」がオープン
武蔵塚公園が新たに開園
5月
川尻下水処理場汚泥焼却場完成
6月
中国・桂林市、アメリカ・サンア
ントニオ市、ドイツ・ハイデルベ
ルグ市を迎え「水資源国際会議」
を開催
7月
「歴史廻廊都市くまもと」作成
8月
花園市民センターがオープン
市民長寿社会憲章制定
9月
平成学園オープン
熊本駅前北地区再開発ビル着工
10月
「熊本桂林友誼館」が落成
第1回女性問題全国会議開催
「水の科学館」が開館
11月
第3回地場産業振興フェア開催



総合婦人会館
カルチャーセンター



水資源国際会議



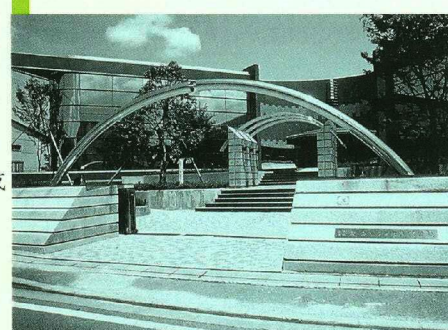
水の科学館

平 1991 平成3年1月
洗馬橋電停が改装され「船
場ポケットパーク」が完成
2月
熊本市と飽託郡四町が合併



熊本市と飽託郡四町が合併

3月
熊本市基本構想策定
4月
2歳児未満の医療費が無料
に
長嶺小・長嶺中開校
「市立実務商業専門学校」
が「市立総合ビジネス専門
学校」と名称を変え移転開
校



市立総合ビジネス専門学校

昭和62年12月、
米国サンアントニオ市
と姉妹都市締結。



熊本市・サンアントニオ市 姉妹都市締結調印式

平成元年8月
金糸猴一般公開

女性消防士誕生

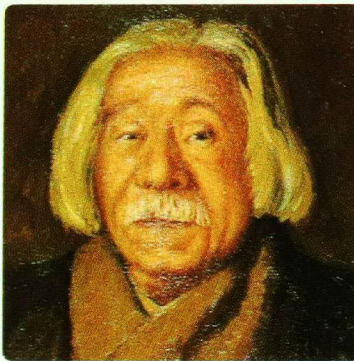
昭和63年4月
長堀通り開通

名誉市民

徳富蘇峰(本名・猪一郎)氏

(昭和30年1月1日表彰)

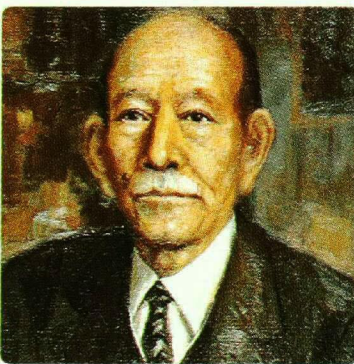
近世日本の先覚者。また、世界に稀な優れた思想家であった。熊本在住中は、白川新聞、熊本新聞等を発刊。大江義塾の創始者として子弟の教育に専念し、その啓蒙的影響が大であった。文久3年1月25日生れ、昭和32年11月2日死去、94歳。



高橋守雄氏

(昭和30年1月1日表彰)

第7代熊本市長として、歩兵23連隊の移転・市電・上水道の開設の三大事業を完遂、市の近代化、発展繁栄に尽した。また、教育者として熊本商大、短大学長を歴任、郷土教育の振興育成に努力した。明治16年1月1日生れ、昭和32年5月3日死去、73歳。



細川護立氏

(昭和35年4月1日表彰)

肥後旧藩主細川家16代。有斐学会会長、肥後奨学会設立、多額の奨学金を出資して本県出身学徒の育成援護に尽した。国の文化財保護委員会委員として、本市の重要文化財、史跡、名勝等の保存活用に貢献。明治16年10月21日生れ、昭和45年11月18日死去、87歳。



福田令寿氏

(昭和35年4月1日表彰)

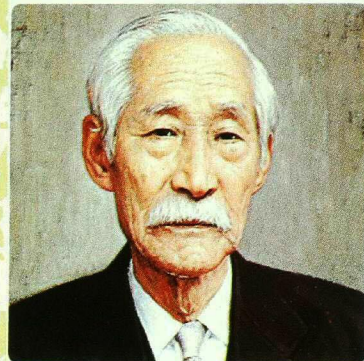
医師開業のかたわら、医専五高等で教鞭をとり子女の教育に専念の外、社会文化、社会福祉の要職を歴任、郷土の文化・福祉の向上発展に尽した。清廉・潔白な人格者であった。明治5年12月7日生れ、昭和48年8月7日死去、100歳。



宇野哲人氏

(昭和44年10月1日表彰)

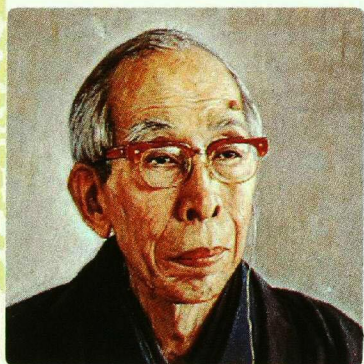
東京帝国大学での漢学・中国哲学の教授、東京大学名誉教授、実践女子大学々長、名誉教授等優れた業績は、郷土熊本の文運の興隆に、また、我国の漢学関係の学者に多大の影響を与えた。明治8年11月15日生れ、昭和49年2月19日死去、98歳。



堅山南風(本名・熊次)氏

(昭和44年10月1日表彰)

横山大観画伯等に師事し、日本画に精進。その多くの作品の上に、肥後の郷土色のにじみ出た芸術の香りがよく生かされている。日本画壇の第一人者といわれ、また、郷土文化の進展に大きく貢献した。明治20年9月12日生れ、昭和55年12月30日死去、93歳。



後藤是山(本名・祐太郎)氏

(昭和54年10月1日表彰)

元九州日日新聞社主筆。生来の文人墨客の性格と豊かな文筆で、数多くの郷土史を編さん監修、先人についての研究著述があり熊本の文化の啓蒙に尽した。「明星」同人、句誌「かはがらし」(後の東火)を主宰した。明治19年6月8日生れ、昭和61年6月4日死去、99歳。



中村汀女(本名・破魔)氏

(昭和54年10月1日表彰)

高浜虚子の門下生で、現代女流俳句の第一人者。常にふるさとを愛する心を底流にした「汀女俳句」は、氏の人柄と句にふれる人々に、郷土愛を喚起させ、郷土の文化振興に貢献。「ホトトギス」同人、「風花」を主宰した。明治33年4月11日生れ、昭和63年9月20日死去、88歳。



本市は九州の中央、熊本県の西北部、東経130度42分・北緯32度48分の位置にあります。

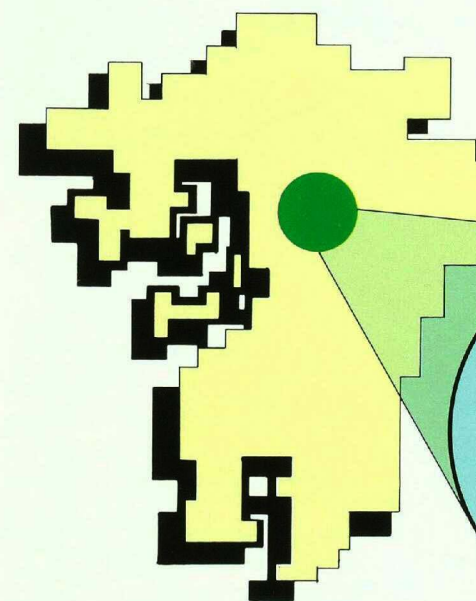
この位置と同緯度に近い都市としては、長崎市や中国の南京市があります。地勢は西北部から北部にかけて金峰山を主峰とする複式火山帯と、これに連なる立田山等の小火山の噴出物で覆われた台地からなり、東部は阿蘇外輪火山群によってできた丘陵地帯であり、南部は阿蘇火山に源を発する白川の三角洲で形成された低平野からなっています。

気候は緯度からいえば温暖な地帯にあるが有明海との間に金峰山系が連なるた



地域と気象

HUMAN CITY KUMAMOTO

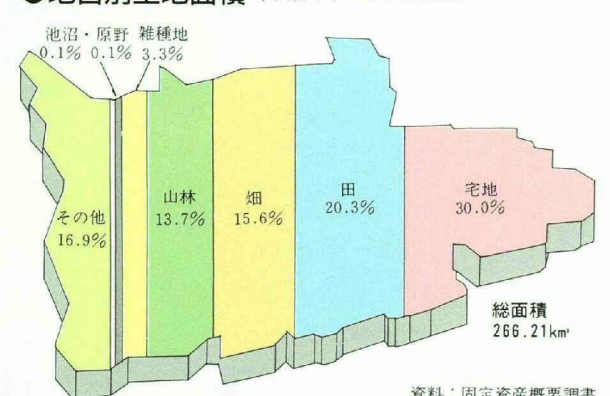
位置・面積
(熊本市役所)

東経 130°42'38"
北緯 32°48'00"
東西 24.1km
南北 20.9km
面積 266.21km²

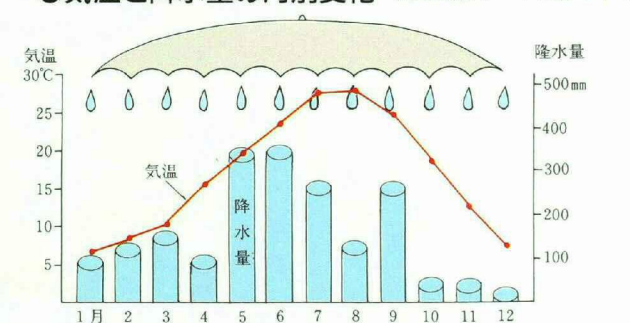
め、内陸盆地的気象条件となり、寒暖の較差が大きく冬から春への移り変わりは早く、夏は比較的長いことが多いようです。また、夏の夕方は「肥後の夕風」といって、蒸し暑いのが特徴です。

気温は年平均17.5℃前後で、平成2年の最高気温は8月の37.6℃、最低気温が1月の-6.3℃となっています。年間降水量は約1,953mmで、4月～9月の半年間に約7割の降水量があります。また、風向きは春から夏にかけて西南西の風が強く、秋から冬にかけては西北西に変わり、風速は1年を通して2m前後のゆるやかな風が吹いています。

●地目別土地面積 (平成4年1月1日現在)



●気温と降水量の月別変化 (昭和63年～平成2年平均)



人口

HUMAN CITY KUMAMOTO

明治22年、市制施行当時42,725人(M.22.12.31現在)であった本市の人口は、その後、数回にわたる市域の拡大や都市機能の集積等に伴い増大し、昭和52年には50万人を超え、平成3年2月1日には、飽託郡4町と合併し、627,568人(224,219世帯)となり、岡山市を抜いて全国で15位となりました。また、近年の人口増加は年率1%前後で推移し、一世帯当たり人員は2.80人となっています。

また、平成2年と昭和60年の国勢調査を比べると23,587人、4.2%の増加で、昭和50年以降、増加数、伸び率ともに鈍化しています。

さらに年齢3区分別にみると、0～14歳の年少人口が19.3%、15～64歳の生産年齢人口が68.9%、65歳以上の老年人口が11.4%となっており、60年より年少人口の割合が2.2ポイント低下したのに対し、老年人口が1.5ポイント上昇するなど、高齢化が進みつつあります。

また、人口の地域分布では、平成2年の国勢調査結果でみると、およそ東部に24万7千人、北部に11万4千人、中央部に7万8千人、南部に7万4千人、西部に6万6千人となっています。この中で、中央部だけが人口の減少が続いています。

なお、人口分布の偏りを示す人口重心は、25年から一貫して東へ寄り続け、平成2年では、熊本高校運動場西側に移動

し、相変わらず東部方面の人口が増加していることを示しています。

都市圏人口

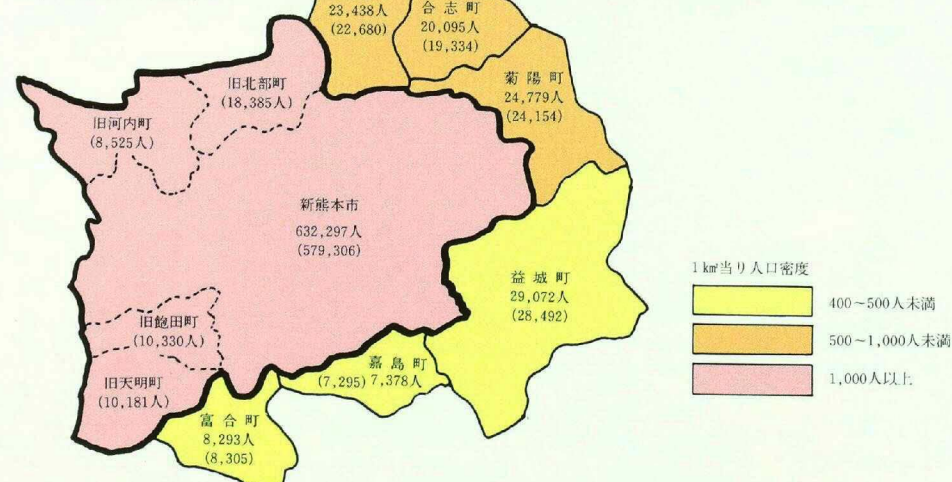
熊本都市圏の人口は、平成4年2月1日現在745,352人(261,091世帯)で熊本県総人口の40.4%を占めています。人口増加率は、0.9%となっています。

都市圏人口は、昭和30年国勢調査以降、5年毎に熊本市は4万人前後で増加していましたが、昭和60年から平成2年までは約2万4千人(4.2%)の増加となり、伸びが鈍化してきました。また、10町の人口は、昭和45年までは減少し、昭和50年に増加に転じ、55年にピークとなり、増加率は20.5%の大幅な増加となっています。

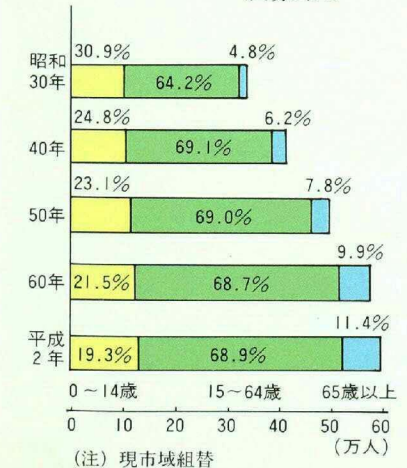
昭和45年から平成2年までの20年間の都市圏人口の増加数は約18万3千人となっています。現在、人口増加のピークは過ぎたものの年平均6千人から7千人の増加を続けています。

●熊本都市圏の人口分布図

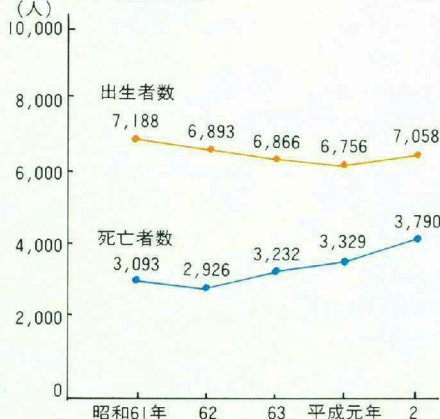
(平成4年2月1日現在)
カッコ内はH.2年国調人口



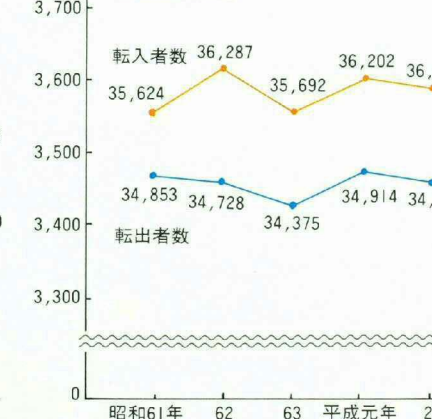
●人口の年齢(3区分)構成推移



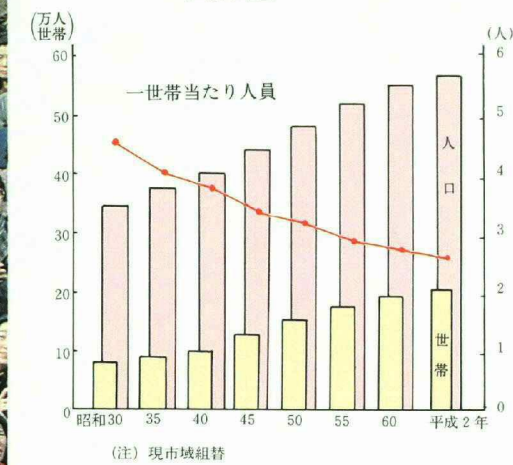
●自然動態



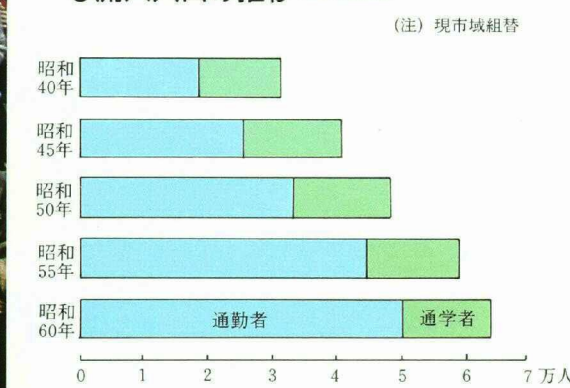
●社会動態



●人口・世帯数の推移



●流入人口の推移



●年齢別人口構成

